



## はじめに

信州辰野は東経138度00分00秒、北緯36度00分00秒に位置し、町内の山頂には、『日本中心の標』があります。一時は、水質悪化により激減した県天然記念物のホタルの保護増殖に町をあげて取り組み、今では1晩に1万3000頭以上の乱舞が見られるようになりました。

毎年6月に開催される「ほたる祭り」に訪れる観客も12万人を数えます。

この取組に見られるように、先人が築き守ってきた自然や文化、歴史や伝統などを次の世代に引き継いでいくため町民相互の、また町民と行政との理解と信頼のもと、お互いの特性や能力を生かして連携、協力する『協働のまちづくり』に取り組んでいます。辰野町学校支援地域本部事業もこの取組の1つに位置づけられています。

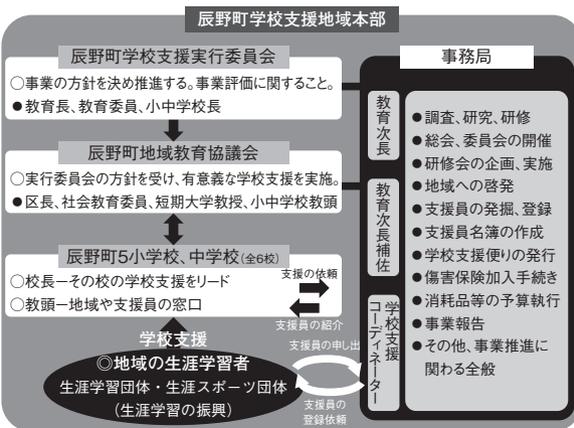
# 張り合い、生きがい、学校支援

## 辰野町の学校支援

辰野町教育委員会は、平成20年2月の1次募集に応募、辰野町学校支援実行委員会、辰野町地域教育協議会を設置して辰野町学校支援地域本部を立ち上げました。辰野町にある小学校5校、中学校1校の計6校すべてが対象です。これらの学校に、以前から不審者対策・交通事故防止のための安全見回り、生活科、総合的な学習の時間のゲストティーチャーという地域の支援が実施されてきました。そこで、新たに学校支援地域本部事業に取り組みにあたり、3年間の事業で何がどう変わればよいのか検討し、次のような願いを持って事業を推進することにしました。

- ① 学校支援の内容をこれまで以上に多様なものとし、支援の質を高める。
- ② 辰野町に地域が学校を支援する気風を醸成する。
- ③ 辰野町の学校支援が細ることなく継続発展するような組織や基盤をつくる。

図1



る(図1参照)。

## 辰野町学校支援地域本部事業の特色

1 調査、研究および研修会を重視  
平成21年度、辰野町学校支援地域本部・事務局では11回の研修会や視察に参加しました。地域本部主催の研修会も年間2回開催しています。昨年11月には、『継続、発展する学校支援を求めて』やりがい、張り合い、学校支援

## 長野県辰野町教育委員会

『をテーマに12名の学校支援員(学校支援ボランティア)によるシンポジウム形式の研修会を開催しました。シンポジストからは次のような声が聞かれました。

〈そろばんの指導〉「なくしてはいけないものを伝えたいという強い気持ちと、楽しくて元気をもらえる喜び、それが活力です」

〈金管バンドの補助〉「楽器と子どもたちのメンテナンスのため。ステップごとに子どもたちがくれる笑顔のお礼のつもりでやっています」

〈読み聞かせ〉「絵本をとおして子どもたちと共感できる、私を覚えてくれる声をかけてくれる。そのうれしさ、喜んでもらえることがやる気をくれます」

〈清掃指導〉「勉強で忙しい子どもたちになごみを与えてあげたいと思って。教えたことに対し返ってくる笑顔、これがうれしい」

〈部活・剣道の指導〉「子どもと話しをして剣道以外のことも教えると敏感に反応してくれる。その素直さがうれし

かった。自分の勉強にもなります」

学校支援をとおして、やりがいや張り合い、生きがい、満足感や自尊心、自負心などが生まれ、それがまた支援の意欲やエネルギーとなつていることが明らかになりました。

## 2 地域と学校が豊かに学ぶ

### 双方向の事業

学校支援員はことごとく生涯学習者であるとおっています。生涯学習者にとつて学校支援は、しばしば自身の学習の成果を発表する自己実現の場や、学びの評価の機会ともなります。また、子どもたちから学習のエネルギーをもらつたり、自身の新たな学習課題を把握したりする機会にもなつていきます。学校支援地域本部事業は、学校と子どもたちだけが恩恵を受ける一方の事業にとどまらない、学校支援員にとつても得るものがある双方向の事業にしていきたいと考えています。

## 3 地域への事業の啓発

事業に取り組むにあたり、恒久的に継続、発展する学校支援となることを願い、地域への啓発に努めました。「啓発により地域に学校支援が周知され、学校支援員が得られる」「地域に学校を支援する気風が生まれる」「生涯学習の振興や地域の活性化が図れる」地域、学校の協働・共育の風土を醸成することができる。このような成果を積み重ねること、学校の教育力だけ

でなく、学校を含めた地域全体の教育力が高まるものと思えます。地域の学校支援が、いずれ「辰野の教育」の1つの特色になることを願っています。

幸い、辰野町では事業の啓発に協力していただける多くのメディアに恵まれました。辰野町役場発行の『広報たつた』には事業の紹介や学校支援員の声を掲載していただきました。地元の新聞2社には随時各校の支援活動を記事にしていたり、学校支援員の募集にも協力していただいたりしています。隣の市町村からも支援の申し出をいただきました。本部事務局でも「辰野町学校支援だより『ながれ』」を発行し、事業の進捗状況、各校での支援活動の紹介、研修報告などを記事にしています。

## 4 生涯学習者から学ぶことよさを子どもたちに

自分で学習課題を決め、学習方法を求め、自身で評価しながら生涯をととして学び続ける生涯学習者に学ぶことは、学校での学びとまた違った魅力があります。「おかげで今度の習字のとき、うまく書けそうな気がしています。ずっと習字をやってきたというこトですが、どうやってそんな大きな夢を持てたんですか（小学3年生・毛筆書写の支援）」「中学1年の時からお世話になっていきます。先生の姿から学んだことは『立ち姿』です。姿勢がとても素晴らしいです。僕もあんな風になり

たいと思っています。姿勢がよいと、生き方もまっすぐに生きてきたという感じがします。そこが素晴らしいと思います（中学3年生・剣道部の支援）」

子どもたちの鋭い感性で生涯学習が続けることよさを感じとつてもらふことも、地域が学校を支援する成果の1つであると考えます。

## 5 学校支援員の部屋の設置

「ふるさと教室」「ふるさとふれあい広場（室内）」「たのめの里ボランティアルーム」「学校支援の部屋」など、名称はさまざまですが、各校に専用の部屋を設置し、支援の事前事後の打ち合わせや見返し、支援員相互の交流などに使っています。さらに学校支援に参加してみようと考えている地域の方々が集い、新たな支援員を確保する場にもなっています。

## 成果と課題

平成21年度の学校支援員の町内6校の総人数は423名。実施事業数2011事業。延べ活動人数は、1万6990名を数えました。

特色ある支援活動としては、  
①単級の小規模校で音楽会前の1か月間と音楽会当日、ピアノ伴奏の支援をしていただきました。

②辰野町書道協会の会員から3年生の



毛筆書写の初期指導を受け、児童と担任が基本を学びました（写真1）。

③中学生が、清掃の会の会員から「心を磨く清掃」を指導していただきました（写真2）。

④子どもが広範囲に散らばる野外での写生会に辰野町美術協会の会員に入つていただき、個別の指導が充実できました。

⑤金管バンド部が辰野町吹奏楽団の支援を得て、パート練習や個人練習が効率的に行われています。

事業3年目を迎えた現在、学校支援の内容を太らせること、地域の啓発を盛んにし地域が学校を支援する気風を高めること、各校に学校支援員や地域の方が集う部屋を設置し、地域と学校が一層の融合を図る場となること、などに一定の成果が得られたと評価しています。

さらに学校支援のよさを地域や学校に理解していただき、事業数を増やすとともに、登録していただいたすべての支援員や団体が活動できるよう支援の場を拡大していきたいと思えます。

（辰野町学校支援コーディネーター 栗林良裕）